南アルプス市埋蔵文化財調査報告書　第15集

山梨県南アルプス市

平成18年度埋蔵文化財試掘調査報告書

各種開発工事に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書

２００８．３

南アルプス市教育委員会

TRIAL EXCAVATION REPORT OF BURIED CULTURAL PROPERTIES，2006

例　　言

１．本書は山梨県南アルプス市において平成 18 年度に実施した埋蔵文化財試掘調査報告書である。

２．本事業は国宝重要文化財等保存整備費補助金・山梨県文化財関係補助金を受け、南アルプス市教育委員会が実施した。

３．調査は田中大輔、斎藤秀樹、保阪太一が担当した。

４．本書の執筆は第Ⅰ章および第Ⅱ章１、２、４、５は斎藤、第Ⅱ章８、９は田中、第Ⅱ章３、６は保阪が担当し、編集は小林素子、斎藤が行った。

５．整理作業には、飯室めぐみ、加藤由利子、神田久美子、久保田幸恵、小林、桜井理恵、廣瀬源春、古郡　明、穂坂美佐子、山路宏美が参加した。

６．本調査で得られた出土品およびすべての記録は、南アルプス市教育委員会に保管してある。

７．試掘調査から報告書作成まで、次の諸氏、諸機関にご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意としたい。（敬称略・五十音順）

小野正文、櫛原功一、坂本美夫、高野広明、野代幸和、畑大介、保坂和博、帝京大学山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター

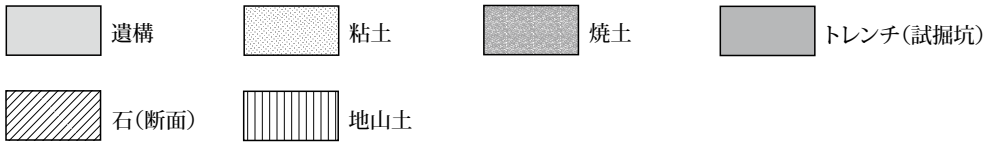
凡　　例

1．遺構および遺物の実測図の縮尺は、それぞれ図に明記しているが、原則として以下のとおりである。

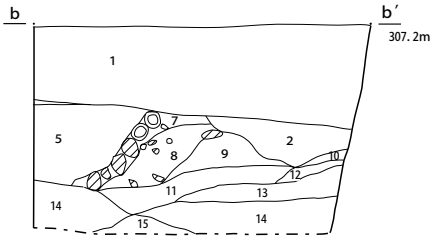
遺構　　平・断面図・・・・・・・1/40、1/60、1/80、1/120

遺物　　土器・・・・・・・・・・1/3

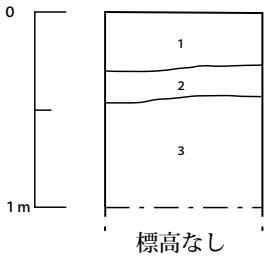
2．遺構図中で使用したスクリーントーンの凡例は以下のとおりである。



3．トレンチおよび遺構の断面図における「307.2m」等の数値は標高を表す。また試掘調査時基準点を使用せず、地表から簡易的に測量した断面図には縦のスケールのみ表記した。



標高あり



標高なし

4．第Ⅱ章の試掘調査地位置図は都市計画図を基に作成し、縮尺は野牛島・西ノ久保遺跡のみ1/10,000 で、その他は 1/5,000 である。トレンチ配置図の縮尺は建築範囲に合わせて決定しているため統一しておらず、それぞれスケールを明記した。

目　　次

例　言
凡　例
目　次
第Ⅰ章　平成18年度試掘調査概要――――**1**
　１．南アルプス市概要――――1
　２．調査概要――――1
　３．今後の課題と展望――――3
第Ⅱ章　平成18年度遺跡試掘調査結果――――**5**
　１．百々・上八田遺跡――――5
　２．前御勅使川堤防址群――――6
　３．豊小学校遺跡――――10
　４．石積出三番堤――――12
　５．野牛島・西ノ久保遺跡――――13
　６．若宮遺跡――――16
　７．前御勅使川堤防址群――――19
　８．野牛島・家西遺跡――――23
　９．八幡第１遺跡――――24

第Ⅰ章　平成 18 年度試掘調査概要

１．南アルプス市概要

平成 15 年 4 月 1 日に八田村、白根町、芦安村、若草町、櫛形町、甲西町の 4 町 2 村が合併して生まれた南アルプス市は、甲府盆地の西部に位置し、総面積 264.06 ㎢、山梨県の面積の約 5.9% を占めている。市西部は北岳（3,193 m）をはじめ、間ノ岳（3,189m）、仙丈ケ岳（3,033m）、鳳凰三山など 3,000 m級の山々が連なる南アルプス山系となっており、森林原野が市面積の約 73％を占めている。一方市東部は、南アルプスやその前衛巨摩山地から流下する御勅使川や滝沢川、坪川等によって造り出された複数の扇状地が重なり合う複合扇状地となっている。市の東縁には釜無川が南流しており、扇状地が削られ氾濫原が造り出されている。

２．調査概要

平成 18 年度の試掘調査は総数 38 件を数える。昨年度の 54 件と比べると調査件数は減少しているが、一方で開発面積が約 9 万㎡におよぶ御勅使南工業団地造成工事計画に伴う試掘調査を長期間に渡り実施した。

公共、民間別では公共事業 9 件、民間事業 29 件で、民間事業に伴う試掘件数が約 76% を占める。調査原因別に見ると宅地造成・分譲住宅建設が突出して多く、例年と同様の傾向を示している。宅地分譲に伴う試掘調査が多い原因としては、宅地分譲が広範囲に及ぶ開発となるケースが多い点や少子化、

調　査　原　因		15 年度	16 年度	17 年度	18 年度	合　計
公共事業	道路	3	3	3	7	16
	学校	2	0	1	2	5
	公共施設	2	1	4	0	7
	小　　計	**7**	**4**	**8**	**9**	**28**
民間事業	個人住宅	12	2	3	5	22
	個人住宅兼店舗	2	1	2	0	5
	集合住宅	1	4	5	5	15
	工場	0	2	4	3	9
	店舗	8	3	3	1	15
	宅地造成・分譲	13	13	16	13	55
	倉庫	1	2	1	0	4
	駐車場	1	0	2	0	3
	鉄塔	1	0	7	0	8
	その他	1	3	3	2	9
	小　　計	**40**	**30**	**46**	**29**	**145**
合　　計		**47**	**34**	**54**	**38**	**173**

第 1 表　平成 15 ～ 18 年度試掘調査原因一覧

第２表　平成 18 年度試掘調査一覧

No.	遺跡名・試掘名	調査地	対象面積（㎡）	調査面積（㎡）	トレンチ数	遺　構	遺物	調査期間	調査原因
1	小笠原 1617-1	小笠原 1617-1	2,562.08	24.8	3	なし	なし	2006 年 4 月 6 日	宅地造成（分譲住宅）
2	在家塚 801-1、801-6	在家塚 801-1、801-6	1,067.19	17.3	1	なし	なし	2006 年 4 月 17 日	集合住宅
3	百々・上八田遺跡	上八田 251-1	1,238.00	47.4	4	竪穴住居址	土師器	2006 年 4 月 25 日	宅地造成（分譲住宅）
4	鮎沢遺跡	鮎沢 1018 他	2,384.00	10.4	2	なし	なし	2006 年 4 月 26 日	宅地造成 (分譲住宅)
5	百々 2009-5 他	百々 2009-5 他	3,800.00	54.0	6	なし	なし	2006 年 4 月 26 日	宅地造成 (分譲住宅)
6	前御勅使川堤防址群	野牛島 1828-1 他	6,493.70	51.4	3	堤防址	なし	2006 年 4 月 27 日、6 月 15 日～ 20 日	店舗
7	前田道下遺跡	十日市場 727	1,710.85	11.6	2	なし	なし	2006 年 5 月 8 日	養護老人ホーム
8	十五所 698-1、小笠原 1468-1 他	十五所 698-1、小笠原 1468-1 他	4,087.00	50.5	6	なし	なし	2006 年 5 月 18 日	宅地造成（分譲住宅）
9	御所庭西 A 遺跡	小笠原 779-5 他	7,500.00	37.4	4	なし	なし	2006 年 5 月 24 日	都市計画道路山寺・桃園線
10	六科・村北遺跡	六科 63 他	2,682.96	37.2	4	なし	なし	2006 年 5 月 25 日	宅地造成（分譲住宅）
11	横道 D 遺跡	下市之瀬 1109	4,080.00	21.4	7	なし	なし	2006 年 5 月 25 日	市道棚形 4 号線
12	豊小学校遺跡	吉田 787	1,057.00	16.8	4	竪穴住居址	古式土師器	2006 年 6 月 2、5、6 日	小学校屋内運動場
13	御手作遺跡	平岡 1666	367.47	7.4	2	なし	なし	2006 年 6 月 21 日	個人住宅
14	百々・上八田遺跡	上八田 481 － 2	603.59	2.8	1	なし	なし	2006 年 6 月 30 日	個人住宅
15	加賀美条里遺構	加賀美 2815-1 他	4,569.00	28.97	5	なし	なし	2006 年 7 月 4、5 日	宅地造成（分譲住宅）
16	石積出三番堤	有野 2512-1	403.67	11.8	1	堤防址	なし	2006 年 7 月 12 日	個人住宅
17	百々・上八田遺跡	上八田 1246-1	538.14	5.2	2	暗渠	土師器	2006 年 7 月 31 日	個人住宅
18	桃園 813	桃園 813	482.00	12.8	2	なし	なし	2006 年 8 月 28 日	体育館改築
19	野牛島・西ノ久保遺跡	野牛島 2847 他	89,886.00	795.8	30	竪穴住居址、土坑他	土師器、須恵器他	2006 年 8 月 29 日～ 10 月 31 日	造成（工場）
20	百々・上八田遺跡	上八田 188-1	966.00	11.2	1	なし	なし	2006 年 8 月 31 日	集合住宅
21	若宮遺跡	小笠原 755-1	1,835.00	82.2	6	竪穴住居址	土師器	2006 年 9 月 21 日～ 28 日	宅地造成（分譲住宅）
22	飯野 2820、2823-5	飯野 2820、2823-5	1,997.37	17.9	3	なし	なし	2006 年 10 月 2 日	老人福祉施設建設
23	前御勅使川堤防址群、百々・上八田遺跡	百々 4692 他	9,000.00	88.4	8	堤防址	なし	2006 年 10 月 17 日～ 11 月 2 日	支線道路Ａ－１、農道１号（県営畑地帯総合整備事業）
24	中西第 2 遺跡	寺部 1192	1,329.46	14.0	2	なし	古式土師器	2006 年 10 月 25 日	宅地造成（分譲住宅）
25	野牛島・家西遺跡	野牛島 2159	834.00	26.3	2	土坑	なし	2006 年 11 月 15 日	集合住宅
26	前御勅使川堤防址群	上高砂 890	306.00	3.5	1	なし	なし	2006 年 11 月 29 日	市道八田 98 号線
27	加賀美条里遺構	寺部 253 他	410.00	5.0	2	なし	なし	2006 年 11 月 30 日	市道若草 173 号線
28	前御勅使川堤防址群	野牛島 2451-7	798.00	5.4	1	なし	なし	2006 年 12 月 12 日	集合住宅
29	江原 1406 他	江原 1406 他	447.96	4.8	1	なし	なし	2006 年 12 月 25 日	集合住宅
30	野牛島・西ノ久保遺跡	野牛島 2847 他	89,886.00	261.4	7	溝状遺構、土坑	土師器、銅銭	2007 年 2 月 7 日～ 14 日	造成（工場）
31	百々 288-1	百々 288-1	1,551.00	22.4	3	なし	なし	2007 年 2 月 8 日	宅地造成（分譲住宅）
32	飯野 3745-12 他	飯野 3745-12 他	1,213.69	6.0	1	なし	なし	2007 年 2 月 15 日	宅地造成（分譲住宅）
33	横道 D 遺跡	下市之瀬 1109	4,080.00	41.6	5	なし	なし	2007 年 2 月 15 日	市道棚形 4 号線
34	百々・上八田遺跡	上八田 1309-7	318.22	6.1	1	なし	なし	2007 年 2 月 15 日	個人住宅
35	八幡第 1 遺跡	鏡中条 296-1	1,278.00	11.3	2	なし	なし	2007 年 2 月 19 日	宅地造成（分譲住宅）
36	八幡第 1 遺跡	鏡中条 296-2、299	1,033.00	13.5	1	竪穴住居址他	なし	2007 年 2 月 19 日	自動車整備工場
37	飯野 3618-5 他	飯野 3618-5 他	6,795.83	11.5	3	なし	なし	2007 年 3 月 14 日	宅地造成（分譲住宅）
38	御所庭西 A 遺跡	小笠原 779-5 他	4,080.00	103.5	7	土坑	古式土師器、土師器	2007 年 3 月 26 日～ 30 日	都市計画道路山寺・桃園線

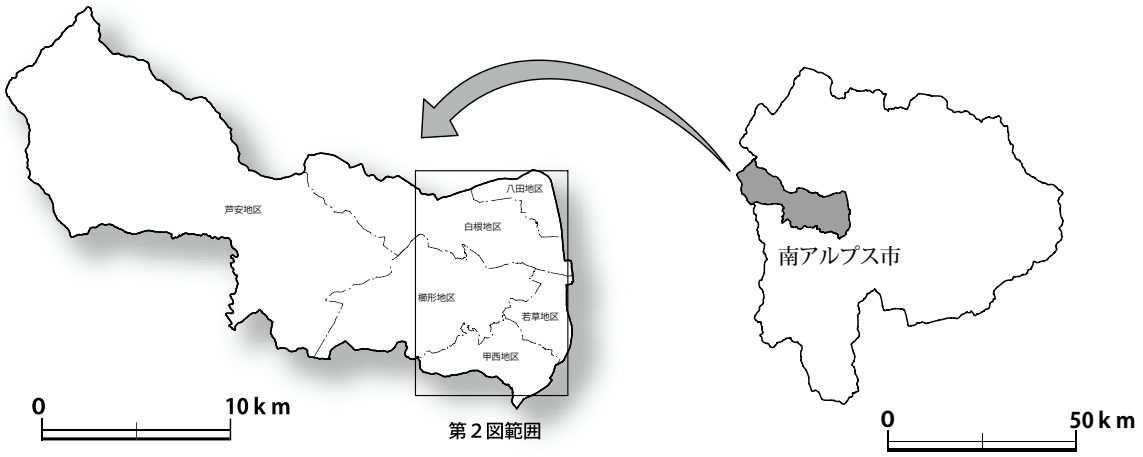
人口減少が続く山梨県内の中で、引き続き市内への宅地分譲の需要が高い点があげられる。

３．今後の課題と展望

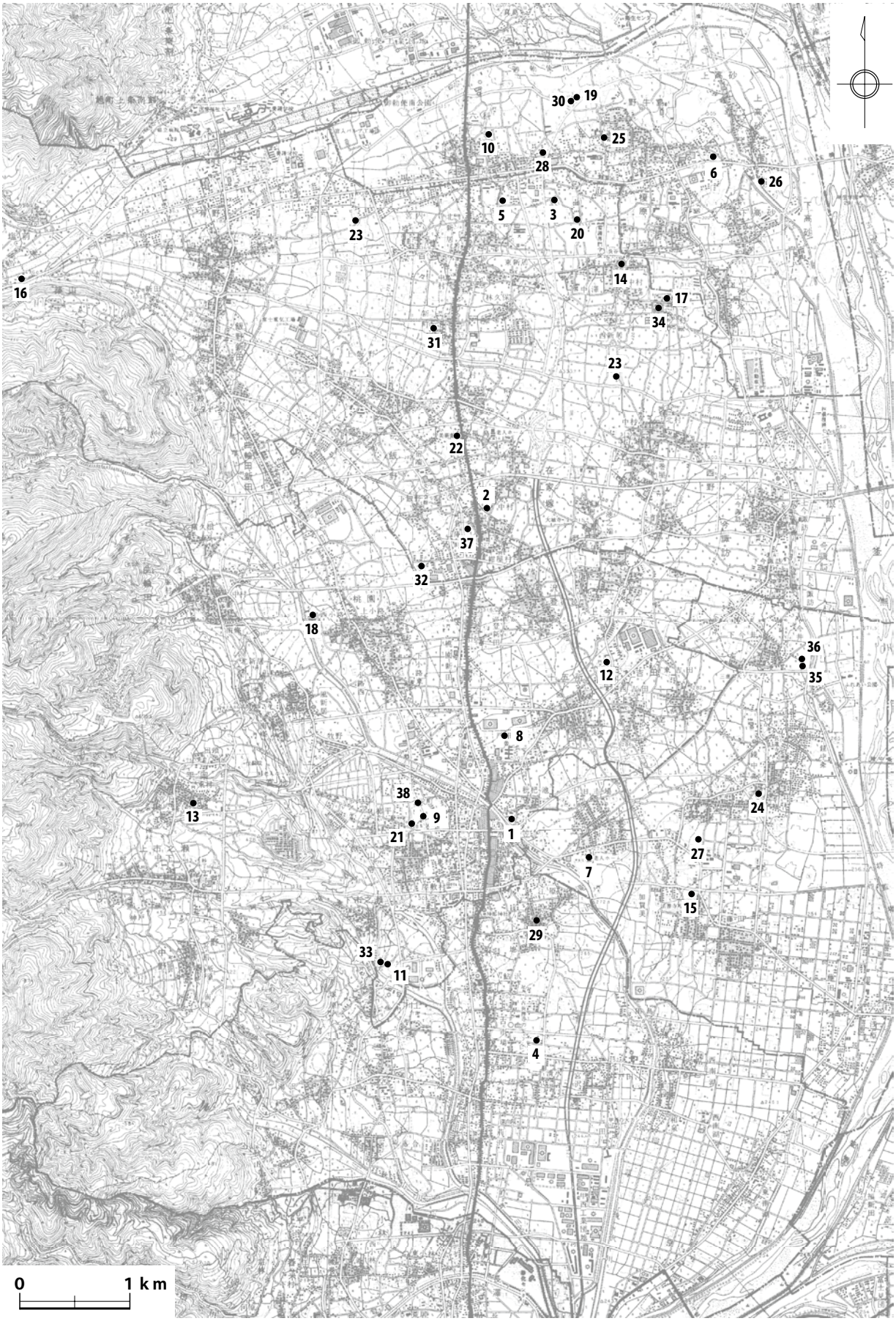
『第１次南アルプス市総合計画』「第２章市の将来像」では、平成 26 年度の土地利用を平成 12 年度と比較し、今後の土地利用の変化が次のように推計されている。平成 26 年度までに農用地が 10% 減少する一方、事業所･店舗用地（17.2% 増）、住宅用地（7.8% 増）、道路（5.4% 増）、工業用地（4.2% 増）など市街地周辺部を中心に農用地の転換が進むと予想されている。こうした推計結果から、市内における開発件数は横ばいかやや増加する傾向にあり、試掘調査の件数もその状況を反映するものと推測される。

平成 18 年度の試掘調査では、試掘総数が昨年度より減少しながらも大規模開発に伴う試掘調査の期間、日数が増加した。大規模開発が調査原因の場合、一般的に他の調査原因と比べ試掘調査にかかる時間、労働のコストは非常に大きなものとなる。本年度の大規模開発は、工場誘致を推進する当市の主要施策に基づくものであり、今後も工場誘致に伴う試掘調査は増加すると予想される。

増加する宅地分譲や大規模開発の増加から埋蔵文化財保護を円滑に遂行するためには、さまざまな規模、種別の工事に対し迅速かつ柔軟に対応できる調査体制の整備と充実が必須である。今後はこれまで蓄積した調査資料をデジタルデータベース化して情報を広く共有し、より効率的な試掘調査に努め、常時新たな情報に基づいて周知の埋蔵文化財包蔵地を更新、高精度化する必要があるだろう。



第１図　南アルプス市位置図（1/40 万、1/200 万）



第２図　試掘調査地点位置図（1/50,000）

第Ⅱ章　平成 18 年度遺跡試掘調査結果

1. 百々・上八田遺跡

調査地　　上八田 251-1
調査原因　宅地造成 (分譲住宅)
調査期間　平成 18 年 4 月 25 日
対象／調査面積　1,238 ㎡／ 47.4 ㎡
調査概要

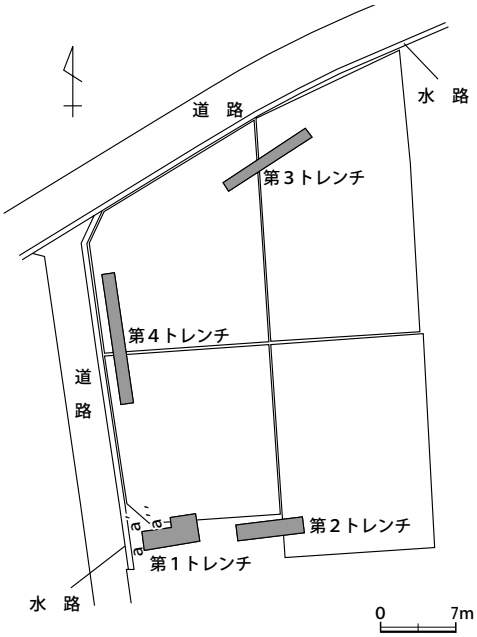
調査区は御勅使川扇状地扇央部に立地し、古代から中世の集落遺跡である百々遺跡の北端にあたる。調査区北側約 200m には明治 31 年まで前御勅使川であった県道甲斐芦安線が東西に走っている。

本計画は宅地分譲住宅建設であり、合計 4 本のトレンチを設定した。

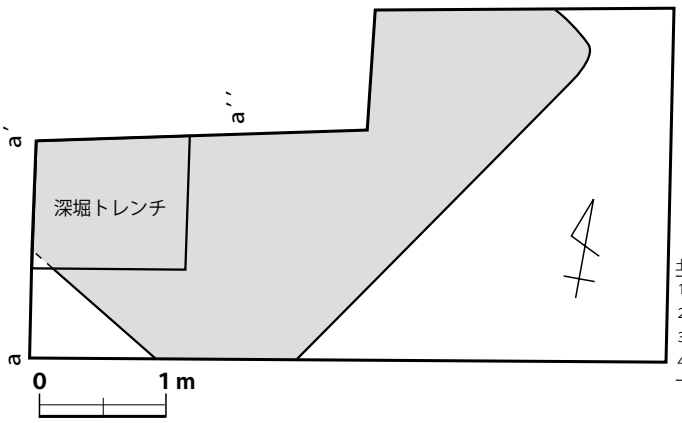
調査の結果、第 1 トレンチ地表から約 1.2m の地点で隅丸方形の遺構を検出した。出土した土師器片や遺構の形状および百々遺跡から平安時代の住居址が多数検出されているなどの点から、この遺構は平安時代の竪穴住居址と推測される。

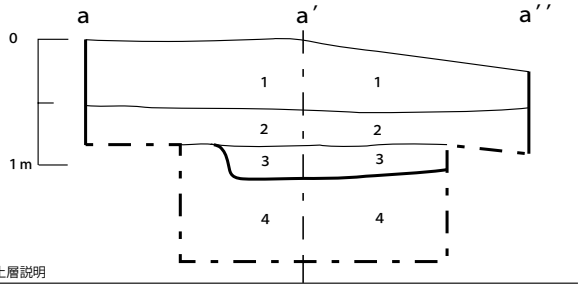
保護協議の結果、基礎掘削深度と遺構との間に保護層が確保され、工事による遺構への影響がないため現状保存とし、工事が着工された。

第 3 図　調査地位置図



第 4 図　百々・上八田遺跡トレンチ配置図（1/700）





土層説明
1．褐色土　耕作土。
2．暗褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。3㎝以下の石をやや多量に含む。褐色土を含む。
3．暗褐色土　しまりややあり。粘性やや欠。1㎝以下の石をやや多量に含む。遺物を含む。
4．明褐色土　しまりややあり。粘性あり。シルト。地山。

第 5 図　第 1 トレンチ平・断面図（1/60）

２．前御勅使川堤防址群

調査地　野牛島 1828-1 他
調査原因　店舗
調査期間　平成 18 年 4 月 27 日
　　平成 18 年 6 月 15 日～ 20 日
対象／調査面積　6,493.7 ㎡／ 51.4 ㎡
調査概要

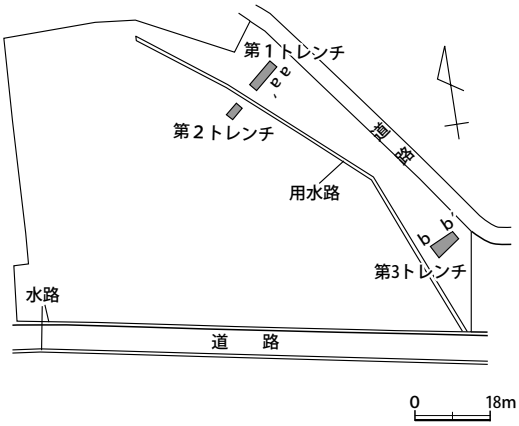
調査区は野牛島地区の前御勅使川左岸に位置する。現在調査区南側に走る県道甲斐芦安線は明治 31 年まで前御勅使川の流路であり、前御勅使川の両岸には多くの霞堤が分布していたことが知られている。現在までに多くの霞堤が削平され、当時の形状を留めるものは旧運転免許センター南側の「お熊野堤」など数地点に限定される。調査区内に位置する前御勅使川左岸の堤防はすでに削平され現状では駐車場となっており、地上ではその痕跡が認められなかった。

まず調査区内の店舗建設地点付近に任意寸法のトレンチを２カ所設定し調査を実施した。その後、工事計画の変更があり、新たなトレンチを１ヶ所（第３トレンチ）設定して再度調査を実施した。合計３ヶ所のトレンチ調査の結果、第１、３トレンチで堤防の川表側基底部を検出した。

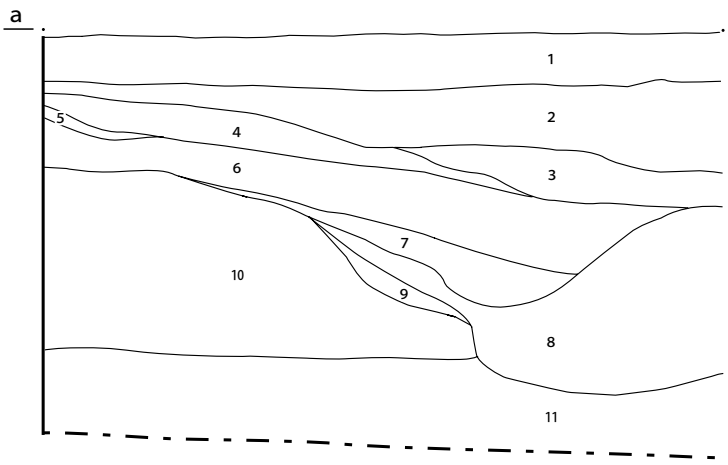
第１トレンチ

調査区北東側で堤防の川表部分をトレンチ断面で確認した。堤体は洪水層（11 層）の上に砂礫（10 層）を盛り上げて造られており、堤体表面には粘土が人為

第６図　調査地位置図



第７図　前御勅使川堤防址群トレンチ配置図
（1/1,800）



土層説明

1．灰色土　盛土。砂礫層。８cm以下の石を多量に含む。
2．暗褐色土　砂礫層。粗粒砂ベース。20cm以下の石を多量に含む。
3．青灰色土　砂層。粗粒。
4．褐灰色土　砂層。細砂。
5．褐色土　砂質シルト。
6．褐灰色土　砂層。細砂。シルトを少量含む。
7．暗灰色土　砂層。細砂。
8．褐灰色土　砂質シルト。細砂ベース。酸化鉄を含む。３mm以下の礫を含む。
9．褐色土　シルト。細砂を含む。10cm以下の石を少量含む。
10．灰色土　砂礫層。15cm以下の石を含む。
11．褐灰色土　砂質シルト。下層は細砂。20cm以下の石を少量含む。
細砂がラミナ状に堆積。

0　1 m

第８図　第１トレンチ断面図（1/40）

的に貼られた痕跡（９層）が認められた。堤体の上には、洪水によると思われるシルト、砂礫が堆積していた。川表側法面には石積みがなく、根固め工は発見されなかった。

第２トレンチ

新しい埋土が主体で、堤防のみならず砂礫も検出されなかった。前御勅使川沿いの他の地点同様、戦後砂利採取が行われた跡と考えられる。

第３トレンチ

調査区東側で川表側法面に石積みが施された堤防を検出した。堤体は砂礫とシルトを洪水層（14・15 層）上に積んで造られている。川表側には 15 ～ 25cm ほどの石を使い、落とし積みで石積みが施されている。裏込めは８層に７～ 15cm ほどの石が少量認められるだけで、顕著な裏込め石が用いられた形跡は認められなかった。第１トレンチ同様土台や根固め工は用いられていなかった。

総括

石積出や将棋頭を除き、前御勅使川の霞堤が発掘調査された初めての事例である。川表側法面の護岸方法に相違が見られる第１、３トレンチの堤防は、明治時代の分間図を見ると同一の堤体である。第１トレンチで石積みが見られないのは、直接本流に当たらない部分であったからと推測される。前御勅使川を締めきる原因となった明治 29 年の水害を記録した絵図には、発見された堤防が被災した状況が描かれており、第１トレンチ上層に埋積した砂礫層はこの時のものである可能性がある。

保護協議の結果、店舗予定地を遺構が認められない場所へ変更し、遺構を現状保存することで工事主体者と合意し、工事が着工された。

第９図　明治 29 年水害状況絵図（南アルプス市蔵）

黒い線が堤防、灰色が堤防の流失箇所、黄色に塗られた部分が洪水、朱色が被害にあった家屋を示している。

第 10 図　第 3 トレンチ平・断面図、法面石積み立面図・エレベーション図（1/40）

第１トレンチ断面（西から）

第３トレンチ断面（南から）

第３トレンチ全景（南西から）

第３トレンチ川表側石積み（西から）

第３トレンチ川表側石積み（南西から）

調査風景

３．豊小学校遺跡

調査地　　吉田 787
調査原因　小学校屋内運動場
調査期間　平成 18 年 6 月 2、5、6 日
対象／調査面積　1,057 ㎡／ 16.8 ㎡
調査概要

調査地点は、南アルプス市の東部、御勅使川によって形成された扇状地の扇端部に程近い微高地上に立地する。標高は約 297m を測る。

この周辺地域では、近年中部横断道の建設計画により扇状地を中心とした発掘調査事例が増加している。

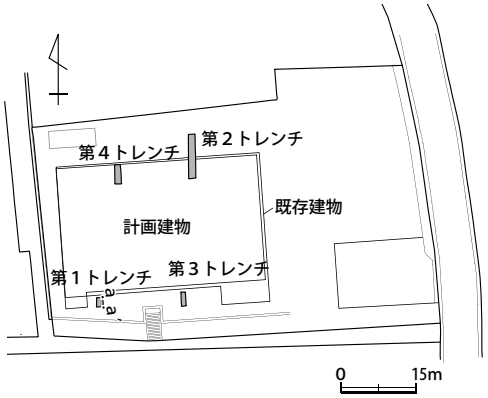
調査地点の南西側約 200 mに所在する「十五所遺跡」では、弥生時代後期の方形周溝墓群や古墳時代初頭の集落跡が検出されている。

また、その南 600 mの位置には古墳時代初頭の大集落として知られる「村前東Ａ遺跡」がある。

本調査地点のある豊小学校遺跡は数回にわたる豊小学校舎改築時に土器片が発見されていることから、埋蔵文化財包蔵地として周知されている。

本調査地点の北東側に接する豊保育所の敷地内において、平成 14 年、園舎改築工事に伴い事前調査が実施され、９軒の住居址など、弥生時代末期～古墳時代初頭の集落跡が検出されている。

第 11 図　調査地位置図



第 12 図　豊小学校遺跡トレンチ配置図（1/1,500）

本試掘調査は豊小学校屋内運動場改築工事に伴うもので、既往の調査成果から、埋蔵文化財の存在が想定されたが、既存建物の存在や、学校の行事との兼ね合いから時間的制約があり、既存の運動場の解体工事と並行して、試掘調査実施可能な範囲を確保できたところから随時試掘調査を実施し、合計４本のトレンチを調査した。

既存運動場建設時に造成されているものの、独立基礎および地中梁により掘削された部分以外は撹乱を受けずに良好に遺存されていた。

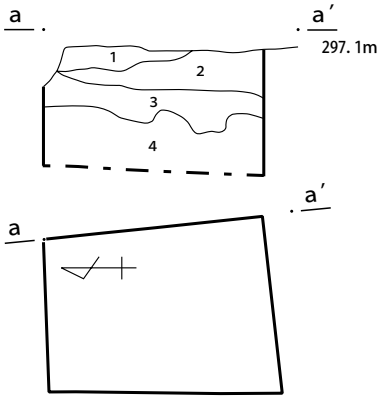
第１、３トレンチでは、厚い砂礫層が確認され、第４トレンチでは一部に遺構確認面とみられるシルト層が確認された。

第２トレンチでは、既存建物建設時における砕石を除去した直下から遺物を包含した層が検出され、今回の計画で新たに基礎掘削が広がる範囲に遺物の分布が集中していることが判明した。

よって、事前調査実施の必要が認識されたため、引き続き事前調査の実施へ切り替え、平成 18 年６月７日から７月 26 日まで実施した。

事前調査では住居址２軒と土坑、溝などが検出され、平成 14 年に豊保育所地点での発掘調査で確認された集落が、さらに東南方向へ広がることが明らかとなった。平成 19 年度に整理作業が実施されている。

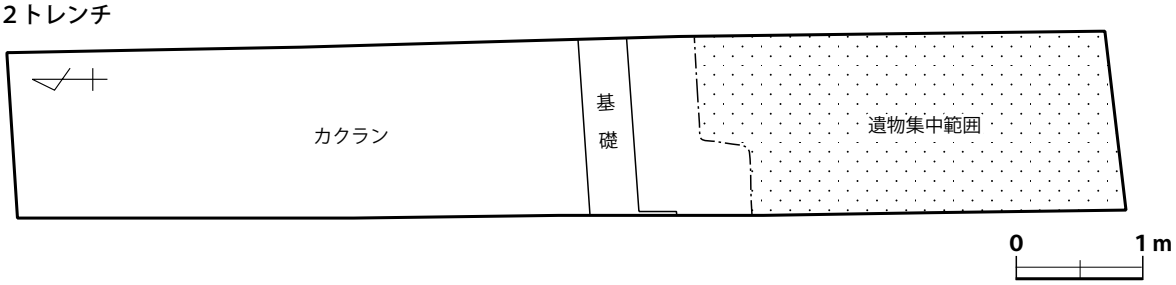
第１トレンチ



土層説明

１．	暗灰色砂礫層	
２．	暗灰褐色砂礫層	土質分あり。
３．	暗灰褐色シルト層	粘性、しまりともにあり。
４．	暗褐色シルト層	粘性、しまりともにややあり。

第２トレンチ



第 13 図　第１トレンチ平・断面図、第２トレンチ平面図（1/60）

第２トレンチ遺物集中範囲（北東から）

第２トレンチ遺物出土状況

第４トレンチ断面（西から）

調査風景

４．石積出三番堤

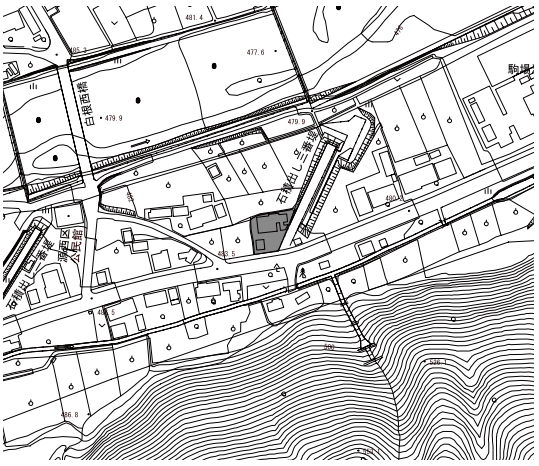
調査地　　有野 2512-1
調査原因　個人住宅
調査期間　平成 18 年 7 月 12 日
対象／調査面積　403.67 ㎡／ 11.8 ㎡
調査概要

調査区は御勅使川扇状地扇頂部に位置し、御勅使川右岸を守る堤防、石積出三番堤の南に隣接している。

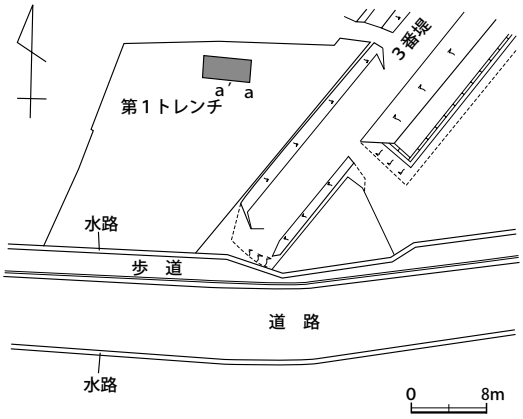
調査原因は個人住宅の建替えであり、堤防との位置関係から住宅下にも堤防が埋没していると予想された。しかし、住宅基礎部分は掘削深度が浅いため遺構に影響はないと判断され、掘削深度が約２ｍにおよぶ浄化槽部分を対象として試掘調査を実施した。

調査の結果、地表下約２ｍから石積出三番堤川表側の石積みの一部を発見した。堤防は洪水による砂礫とシルトで埋没している状況であった。

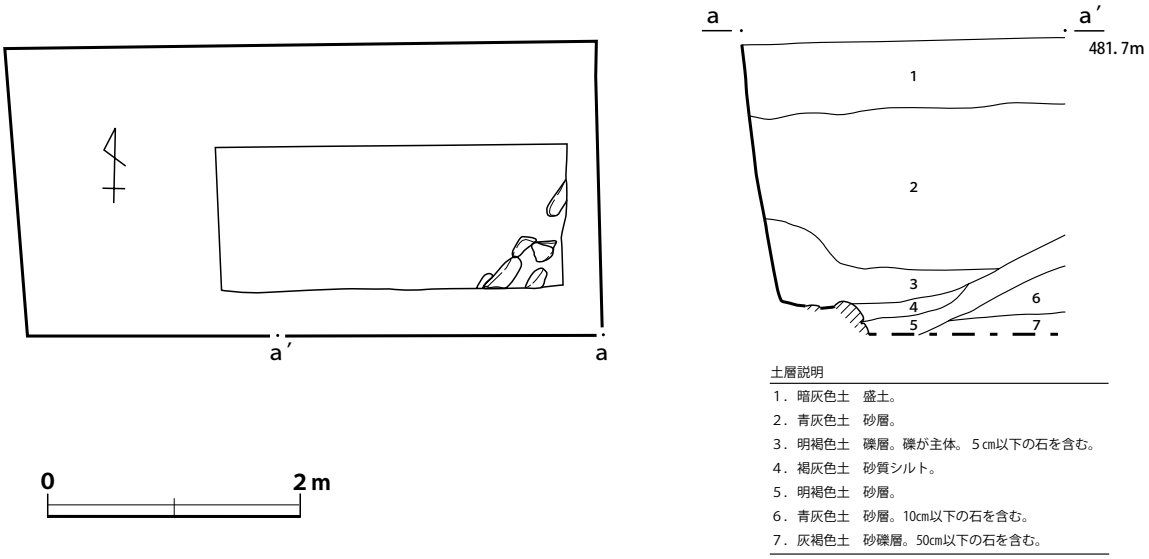
保護協議の結果、浄化槽設置箇所を遺構に影響が及ばない西側に変更し、遺構を現状保存とすることで事業主体者と合意し、工事が着工された。



第 14 図　調査地位置図



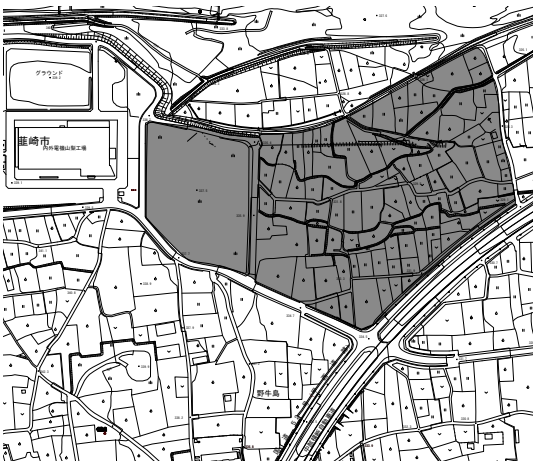
第 15 図　石積出三番堤トレンチ配置図（1/800）



第 16 図　第１トレンチ平・断面図（1/60）

５．野牛島・西ノ久保遺跡

調査地　　野牛島 2847 他
調査原因　造成（工場）
調査期間　平成 18 年８月 29 日～ 10 月 31 日
　　平成 19 年２月７日～ 14 日
対象／調査面積　89,886 ㎡／ 1,057.2 ㎡
調査概要



第 17 図　調査地位置図

野牛島・西ノ久保遺跡は、御勅使川扇状地の扇央から扇端部に位置し、遺跡の北側には御勅使川が流れている。調査区の中央には御勅使川の旧流路が西から東へ流れ、遺跡を大きく南北に分割し、さらにこの流路の南側に小さな谷が造られている。

本遺跡西側には大塚遺跡、南側には野牛島・大塚遺跡および立石下遺跡、東側には石橋北屋敷遺跡が位置し、こうした遺跡に囲まれた野牛島・西ノ久保遺跡の推定範囲は約 44,000 ㎡を数える。

本計画は大規模工場誘致に伴う工業団地造成事業であり、新規開発面積は約９万㎡におよぶ。事業計画は８月に事業を決定し翌年の１月末までには造成工事を開始する工程であり、埋蔵文化財の保護については、試掘調査から本調査までをその期間内に行う厳しい日程であった。そのため試掘調査は、地形と周囲の発掘調査結果から遺構の広がりが予想される地域を絞り込み、その時点で造成工事および工場建設によって掘削が予想される地域を選択して、合計 37 本のトレンチを設定した。また、試掘調査を終了し遺構・遺物を発見した区域から順に、試掘調査と並行して本調査を実施する方法を選択した。

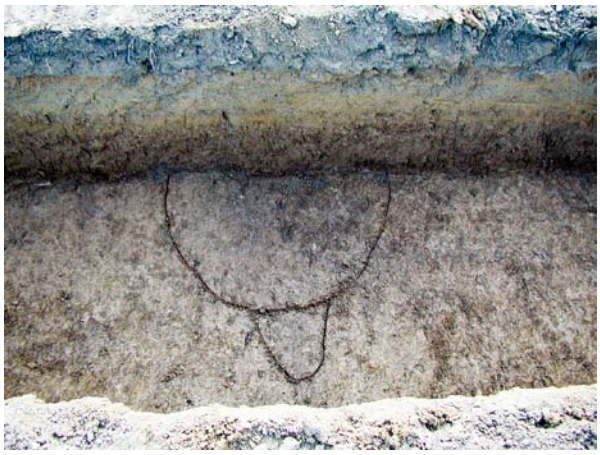
試掘調査の結果、各トレンチで土坑、竪穴住居址、溝状遺構等多数の遺構が発見された。つづく本調査は平成 19 年２月で終了したが、その後さらに造成工事計画の変更、周辺道路整備の追加があり、発掘対象区域が広がった部分の試掘調査を２月に実施した。道路部分および切土部分の本調査は平成 19 年４月に開始し、平成 19 年 10 月に終了した。なお、野牛島・西ノ久保遺跡の発掘調査報告書は、平成 20 年度末に刊行予定である。

調査風景

調査風景

第 18 図　野牛島・西ノ久保遺跡トレンチ配置図（1/1,000）

第１トレンチ遺構検出状況（北から）



第２トレンチ遺構検出状況（東から）

第２トレンチ遺構検出状況（南から）

第 35 トレンチ遺構検出状況（北東から）

第３トレンチ遺構検出状況（南から）

第 34 トレンチ遺構検出状況（北東から）

６．若宮遺跡

調査地　小笠原 755-1
調査原因　宅地造成 (分譲住宅)
調査期間　平成 18 年９月 21 日～ 28 日
対象／調査面積　1,835 ㎡／ 82.2 ㎡
調査概要

調査地点は櫛形山を水源とする漆川によって造り出された扇状地と、さらに北部を東流する滝沢川によって造り出された扇状地との境に立地し、小さな扇状地同士による埋没谷の様相を成す。

調査区南西側には「辻遺跡」があり、弥生時代末期から古代の集落跡が検出されている。

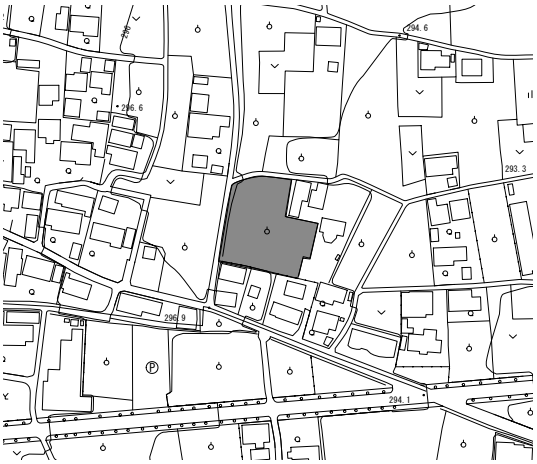
本試掘調査は宅地造成に伴うもので、合計６本のトレンチを設定し、重機による表土の掘削後、人力により精査、遺構確認を行った。

第１トレンチで遺構が検出され、トレンチ東端で現れる砂礫層は、第６トレンチまで続くことが判明した。

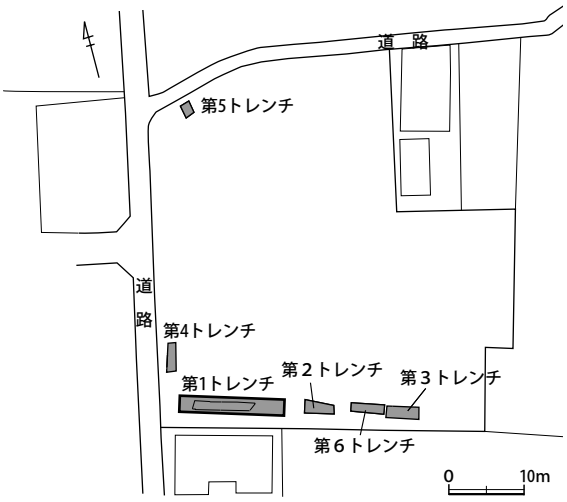
検出された遺構・遺物

検出された遺構は竪穴住居址２軒と、土坑１基であった。確認面までの掘削深度は現状地盤から約 160 ㎝を測る。

隣接する住宅のよう壁が間近である点や、表土からの掘削深度を考慮すると狭小かつ安全面の確保ができないため、改めての本調査の実施はできないものと判断し、トレンチ拡幅および壁面上部に傾斜をつけ調査を実施した。



第 19 図　調査地位置図



第 20 図　若宮遺跡トレンチ配置図（1/1,000）

１号住居址

遺存／形状／規模　トレンチ東部で検出され、その大半を自然流路とみられる砂礫層によって切られているため、規模、形状は不明である。遺構確認面から床面までの深度は約 45 ㎝である。

床面／覆土　貼床は検出されず、床面直上の覆土には焼土粒が含まれていた。検出範囲からは柱穴は確認されなかった。

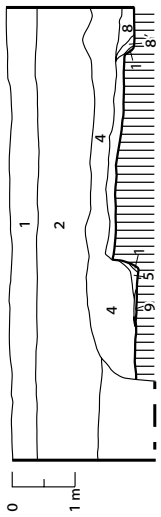
遺物　極めて少量である。

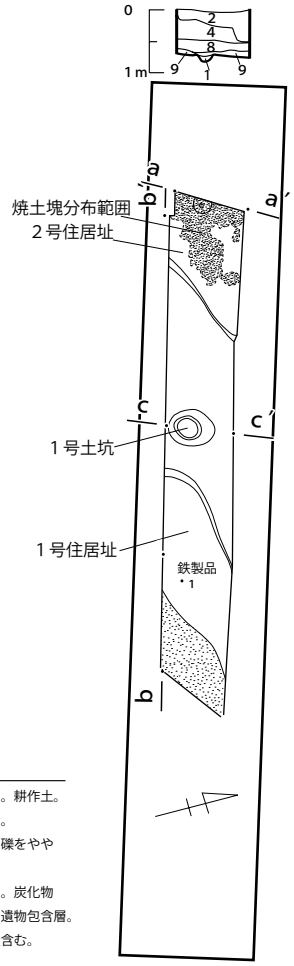
土師器は坏のみが出土した。１は床面上に１㎝程土を挟んだ上から出土した。残存率は底部から体部の 2/3、底径 5.6 ㎝を測る。内面に暗文、外面底部にヘラケズリが施されている。２は残存率は底部の 1/4、底径 5.8 ㎝を測る。内面に暗文が施されている。３は覆土最上部から出土した。器厚が薄く口縁部が外反し、肥厚・玉縁化する。須恵器は甕もしくは鉢の口縁部破片。

その他、使途不明の金属製品が１点出土している。

２号住居址

遺存／形状／規模　トレンチ西端部で検出され、その大半が西側調査区外へ広がるため、規模、形状

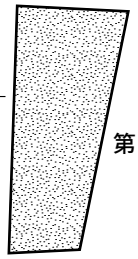




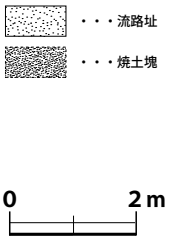
第１トレンチ

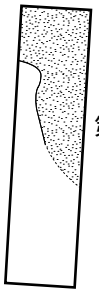
土層説明

１．暗茶褐色土層	粘性、しまりともにあり。耕作土。
２．暗黄褐色砂礫層	15㎝大の礫を多量に含む。
３．暗黄褐色砂礫層	しまりややあり。10㎝の礫をやや多量に含む。ラミナ状。
４．黒褐色シルト層	粘性、しまりともにあり。炭化物粒、焼土粒を少量含む。遺物包含層。
５．黒褐色シルト層	暗茶褐色シルト塊を少量含む。
６．暗茶褐色シルト層	粘性、しまりともにあり。遺構確認面。
７．茶褐色シルト層	粘性、しまりともにあり。
８．暗黄灰色シルト層	粘性、しまりともにあり。焼土粒を微量に含む。
８′.暗黄灰色シルト層	暗茶褐色シルトブロックを多量に含む。
９．暗褐色シルト層	粘性、しまりともにあり。焼土塊を含む。
９′.暗褐色シルト層	９層よりも焼土塊を含む量が少ない。

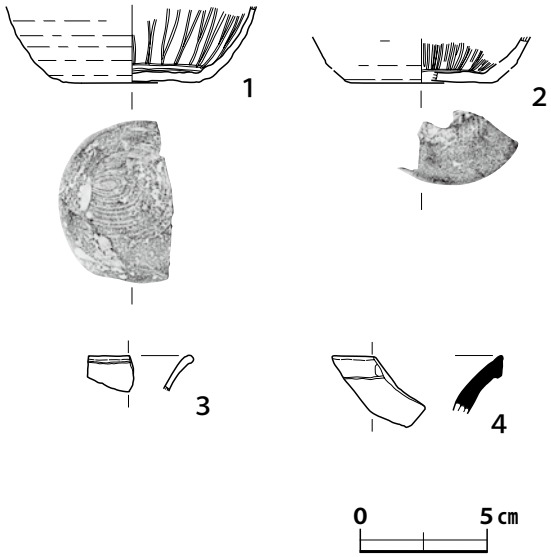


第２トレンチ

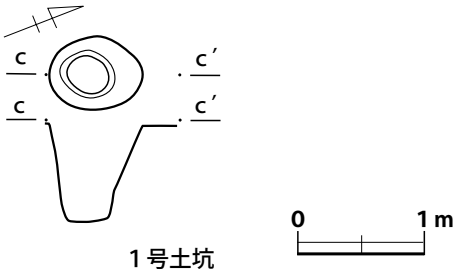




第６トレンチ



第22図　出土遺物（1/3）



１号土坑

第１トレンチ１号住居址出土遺物

第 21 図　第１・２・６トレンチ、１号土坑平・断面図（1/120、1/60）

は不明である。遺構確認面から床面までの深度は 20 ㎝である。

床面／覆土　貼床は検出されず。床面直上の覆土には焼土塊が多量に含まれていた。炭化物はほとんど含まれていない。柱穴とみられる小穴が検出されている。深度は約 12cm を測る。

遺物　遺物は検出されなかった。

１号土坑

南北を長軸にもつ平面楕円形を呈するが、底部ではほぼ正円形を成す。確認面長軸 70 ㎝短軸 55 ㎝、底面部直径 30 ㎝、深度 75 ㎝を測る。特に遺物は出土していない。覆土は 2 号住居址と似て焼土粒を少量含む。

第 1 トレンチ東側で自然流路とみられる砂礫層が現れ、第 6 トレンチでその対岸とみられるシルト層が検出されている。流路幅約 10 m とみられる。

総括

本調査の結果、竪穴住居址２軒、土坑１基、自然流路１条が検出された。竪穴住居址から出土した遺物から、甲斐型編年でⅢ・Ⅳ期～Ⅵ・Ⅶ期、８世紀後半～ 10 世代頃に比定され、継続した居住が想定される。

遺構外の出土遺物には古墳出現期の土器片が含まれており、当調査区西側にある辻遺跡の広がりが検討すべき課題となる。また、当調査区の東には、小笠原長清公館跡推定地が存在し、今回平安期の住居址群が検出されたことや、ある程度の継続性が示されたことは、当地域の歩みを知るうえで、非常に興味深い内容である。

小笠原周辺において、小笠原長清公の活動に関わる考古資料は乏しかったが、近年になり、辻遺跡など小笠原地内において古墳時代～平安時代の調査事例が増加したことは特筆すべき点である。

第１トレンチ全景および１号住居址（東から）

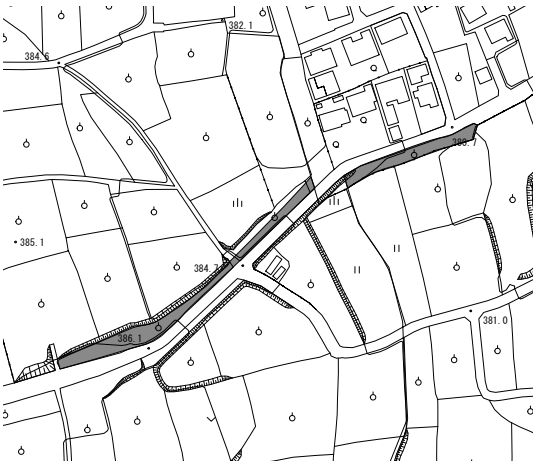
第１トレンチ１号土坑検出状況（北から）

第１トレンチ２号住居址焼土塊分布状況（東から）

調査風景

7. 前御勅使川堤防址群

調査地　百々 4692 他
調査原因　道路
調査期間　平成 18 年 10 月 17 日～ 11 月 2 日
対象／調査面積　9,000 ㎡／ 88.4 ㎡
調査概要



第 23 図　調査地位置図

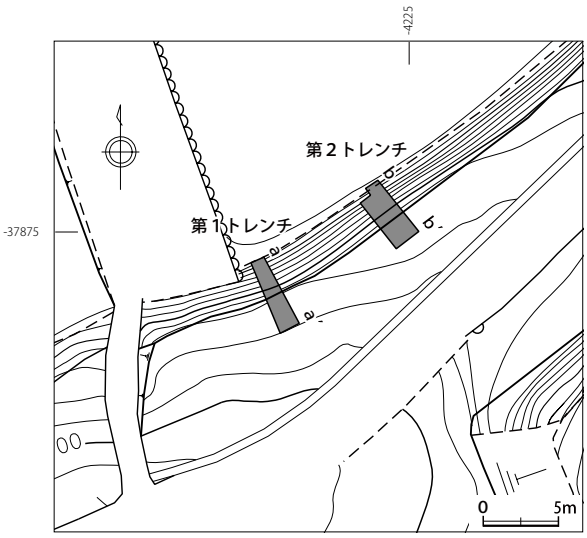
調査区は御勅使川扇状地扇央部に位置している。調査区北側には明治 31 年まで前御勅使川が東流しており、試掘調査を実施した地点は前御勅使川から百々地区を守る右岸の堤防である。

本計画は農道の拡幅工事であり、川表側２本、川裏側２本のトレンチを設定した。

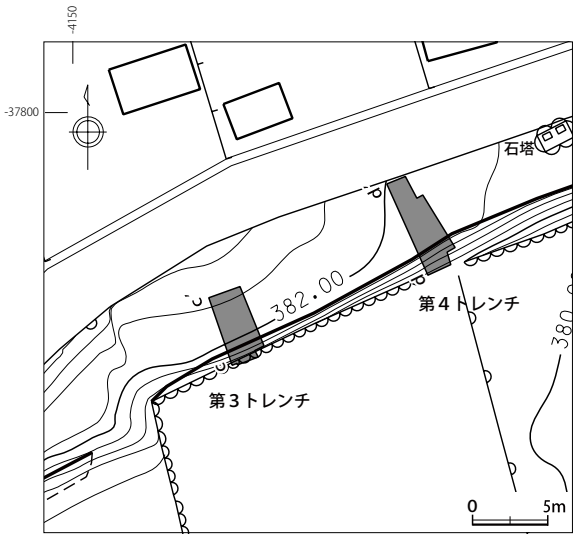
川表側にあたる第１、２トレンチでは、何層かの砂礫およびシルトを積み上げて堤防を築堤する同一の構造を確認した。調査した範囲では、川表側の法面に葺石が認められず、基底部に木工沈床等の根固め工も発見されなかった。

一方、川裏側にあたる第３、４トレンチでは、現堤体の下から旧堤体およびその護岸のために置かれたと推測される蛇籠が発見された。試掘では蛇籠の全容は把握できなかったが、竹蛇籠が利用されていると推測される。遺物は検出されなかった。

計画は農道の拡幅工事であり、堤防自体の掘削が行われる。そのため埋蔵文化財保護について協議を行い、川表側については石積みおよび根固めもなく試掘調査によって堤防の構造を把握していることから、現状の堤防を地形測量して記録保存を図ることとした。一方川裏側には旧堤体が検出されていることから、川裏側の工事で掘削される区域を対象に、平成 19 年度本調査を実施することで山梨県と合意した。本調査は、山梨県から委託を受けた山梨文化財研究所によって平成19年10月12日から始められ、平成 19 年 12 月 14 日に終了している。なお、発掘調査報告書は平成 20 年度刊行予定である。

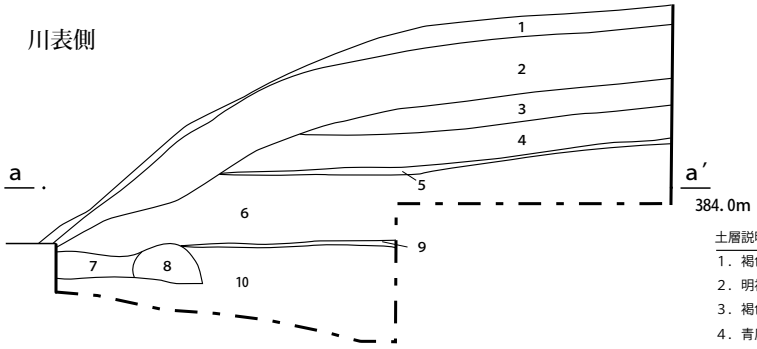


第 24 図　前御勅使川堤防址群
第１、２トレンチ配置図（1/500）



第 25 図　前御勅使川堤防址群
第３、４トレンチ配置図（1/500）

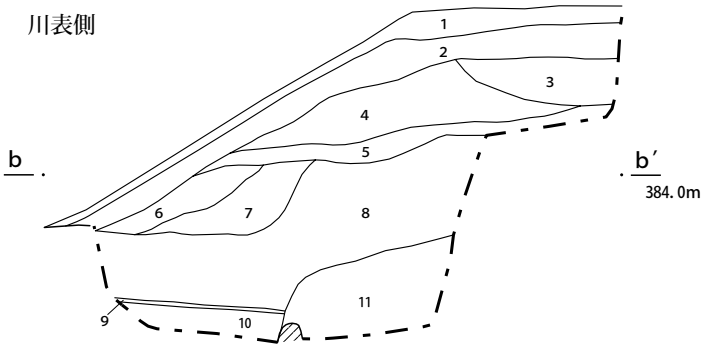
第 26 図　前御勅使川堤防址群トレンチ配置図（1/1,500）



土層説明

1．褐色土　表土。
2．明褐色土　しまりやや欠。粘性やや欠。1㎝以下の石を多量に含む。
3．褐色土　砂礫層。10～20㎝の石を多量に含む。
4．青灰色土　砂礫層。粗粒の砂ベース。
5．褐色土　しまり普通。粘性ややあり。砂質シルト。
6．青灰色土　砂礫層。5㎝以下の石を多量に含む。
7．灰色土　しまりややあり。粘性やや欠。2㎝以下の石を多量に含む。
8．褐色土　しまり普通。粘性ややあり。砂質シルト。
9．褐色土　砂礫層。砂質シルトを含む。
10．青灰色土　砂礫層。5㎝以下の石がベース。粗粒の砂層。

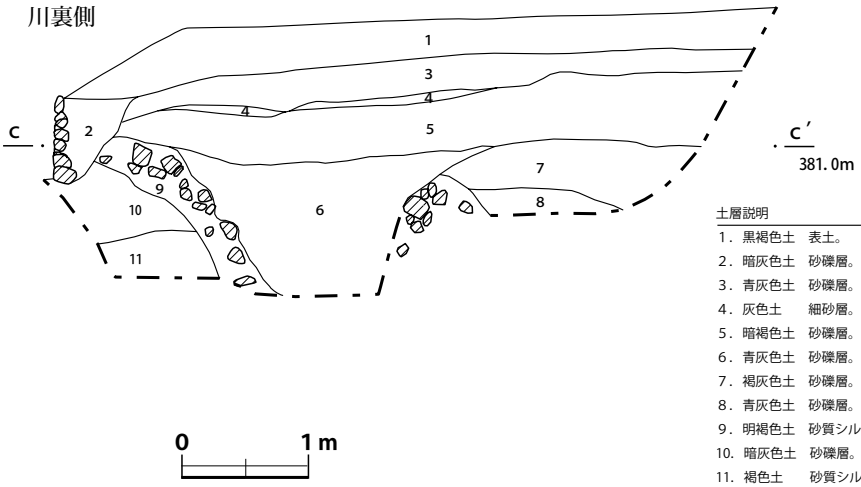
第１トレンチ断面図



土層説明

1．黒褐色土　表土。
2．灰褐色土　しまり普通。粘性やや欠。
3．褐色土　しまりやや欠。粘性欠。砂礫層。10㎝以下の石を多量に含む。
4．青灰色土　しまりやや欠。粘性欠。砂礫層。6㎝以下の石を多量に含む。
5．明褐色土　しまりやや欠。粘性やや欠。砂質シルト。3㎝以下の石を少量含む。
6．暗褐色土　しまり普通。粘性普通。1㎝以下の小石を多量に含む。
7．暗褐色土　しまりややあり。粘性ややあり。砂質シルト。
8．青灰色土　しまりやや欠。粘性欠。砂礫層。10㎝以下の石を多量に含む。
9．明褐色土　しまり普通。粘性ややあり。砂質シルト。
10．青灰色土　しまりやや欠。粘性欠。砂礫層。
11．暗灰色土　しまりやや欠。粘性欠。砂礫層。粗粒の砂。礫が主体。

第２トレンチ断面図

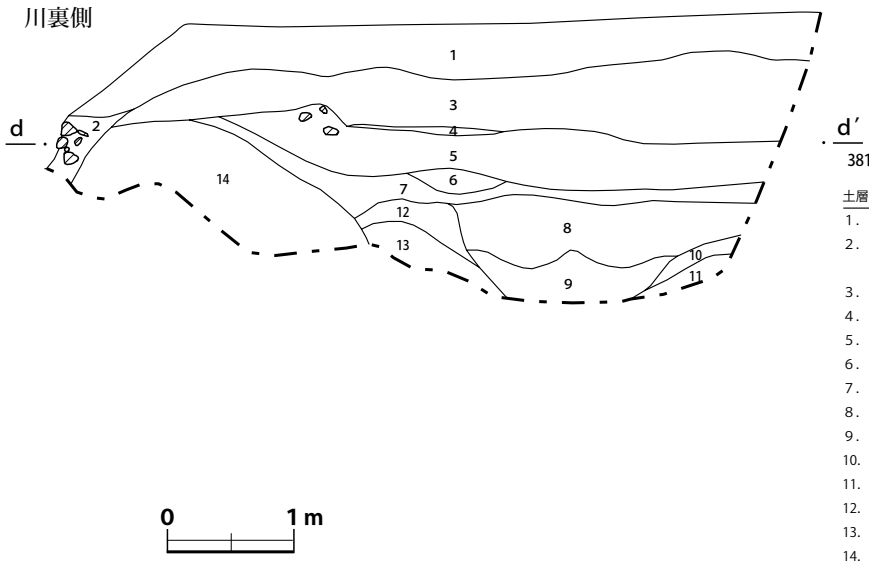


土層説明

1．黒褐色土　表土。
2．暗灰色土　砂礫層。20㎝以下の石を多量に含む。土留石積みの裏込め層。
3．青灰色土　砂礫層。しまりなし。粘性なし。
4．灰色土　細砂層。しまりなし。粘性なし。
5．暗褐色土　砂礫層。5㎝以下の石を多量に含む。
6．青灰色土　砂礫層。5㎝以下の石を多量に含む。
7．褐灰色土　砂礫層。3㎝以下の石を含む。
8．青灰色土　砂礫層。3㎝以下の石を含む。
9．明褐色土　砂質シルト。しまり普通。粘性ややあり。
10．暗灰色土　砂礫層。6㎝以下の石を多量に含む。しまり普通。粘性欠。
11．褐色土　砂質シルト。

第３トレンチ断面図

第 27 図　第１・２・３トレンチ断面図（1/60）



土層説明

1．黒褐色土　表土。
2．暗灰色土　砂礫層。20㎝以下の石を多量に含む。土留石積みの裏込め層。
3．青灰色土　砂礫層。しまりなし。粘性なし。
4．灰色土　細砂層。しまりなし。粘性なし。
5．褐色土　しまり普通。粘性ややあり。砂質シルト。
6．青灰色土　砂層。
7．褐色土　砂質シルト。2㎝以下の石を少量含む。
8．青灰色土　砂礫層。50㎝以下の石を多量に含む。
9．青灰色土　砂層。
10．褐色土　砂質シルト。
11．青灰色土　砂礫層。
12．灰色土　砂質シルト。
13．青灰色土　砂礫層。40㎝以下の石を多量に含む。
14．暗灰色土　砂礫層。6㎝以下の石を多量に含む。しまり普通。粘性欠。

第28図　第4トレンチ断面図（1/60）

第1トレンチ断面（東から）

第2トレンチ断面（西から）

第3トレンチ断面（東から）

第4トレンチ断面（東から）

8. 野牛島・家西遺跡

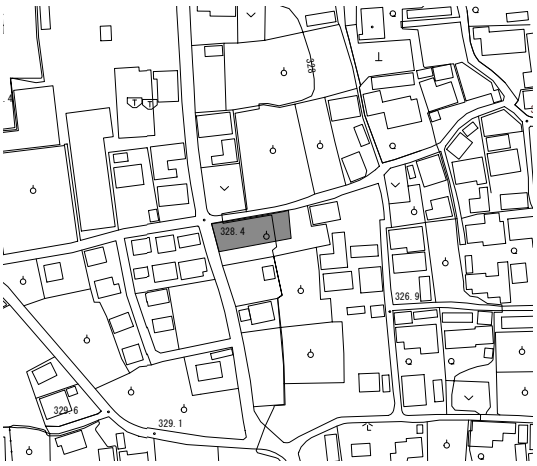
調査地　野牛島 2159
調査原因　集合住宅
調査期間　平成 18 年 11 月 15 日
対象／調査面積　834 ㎡／ 26.3 ㎡
調査概要

遺跡は、御勅使川扇状地上、現在の御勅使川と明治 31 年に締切られ、昭和に入り廃河川となった所謂前御勅使川に挟まれた部分に位置する。ここには、数多くの埋蔵文化財包蔵地が占地し、とくに調査地点の北側には、石橋北屋敷遺跡、野牛島・大塚遺跡など濃密な遺跡の分布が見られる。

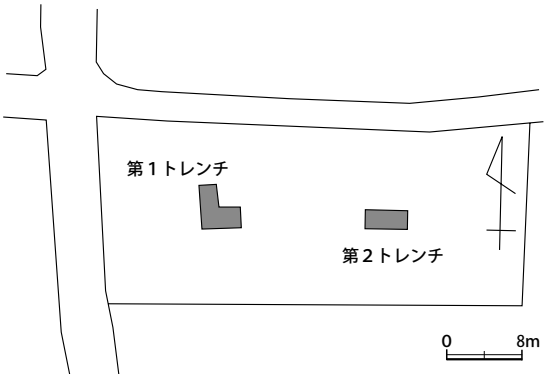
今回の調査は、アパートの建設に伴うもので、トレンチを２本設定した。

第１トレンチでは調査区北西端で土坑を１基検出したため、調査区を北側に延長したが更なる遺構の検出は見られなかった。第１トレンチから遺物の出土は見られなかった。

第２トレンチでは遺構・遺物ともに検出し得なかった。



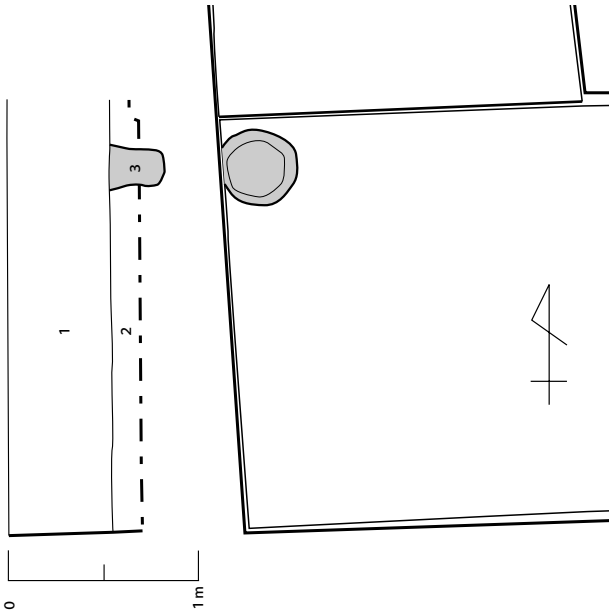
第 29 図　調査地位置図



第 30 図　野牛島・家西遺跡トレンチ配置図（1/800）

調査の結果、検出遺構が時期不明の土坑１基であり、建物が配置される計画地東半に設定した第２トレンチからは、遺構・遺物が検出されなかったこと、更には計画建物の基礎の掘削が、遺構確認面に及ばないことに鑑み、調査終了後工事着工した。

第１トレンチ遺構検出状況



土層説明

1．褐色土	指頭大の円礫含む。
2．暗黄褐色粘質土	遺構覆土。
3．黒褐色土	砂礫含む。

0　1 m

第 31 図　第１トレンチ平・断面図（1/40）

９. 八幡第１遺跡

調査地　　鏡中条 296-2、299
調査原因　自動車整備工場
調査期間　平成 19 年２月 19 日
対象／調査面積　1,033 ㎡／ 13.5 ㎡
調査概要

調査地点は、御勅使川扇状地南東端の崖線上に位置し、御勅使川扇状地を釜無川が侵食して形成した崖線が調査区東側 50 mに迫る。

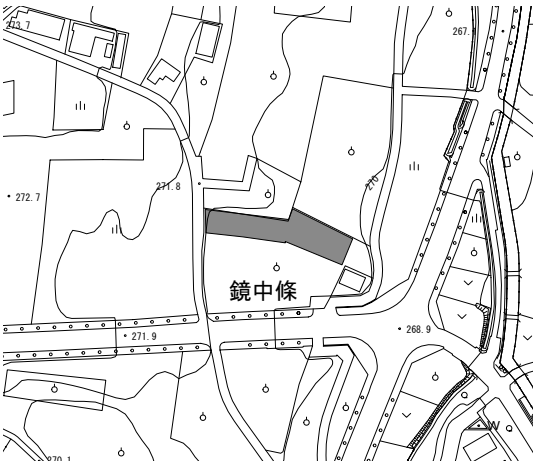
調査に際しては配置図に示したとおりトレンチを 1 本設定した。

重機による掘削後、調査区底面を精査した結果、トレンチ西端付近、現地表下 0.9 m程で遺構を確認した。

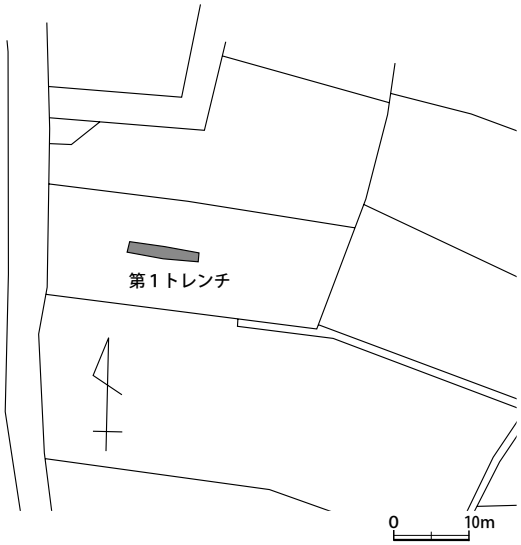
狭小な調査区であるため、遺構の全容は明らかにできなかったが、プラン東端では、黄褐色粘土および焼土層を検出し、この遺構が竈を敷設した竪穴住居址である可能性が強く示唆された。また、調査区北西コーナー付近でも焼土層を検出した。

今回の調査において遺物の検出は見られなかったが、検出した遺構が東側に竈を有する竪穴住居址であった場合、推定される遺構の規模、竈の敷設位置および周辺の遺跡の状況に鑑み、当該遺構が平安時代前半の所産である蓋然性が高いものと推察された。

工事計画は、東側に傾斜する現況に客土した後、ガレージ等を建設するものであったが、試掘調査の結果、規定の保護層を確保できることが明らかとなったため、調査後工事が着工された。

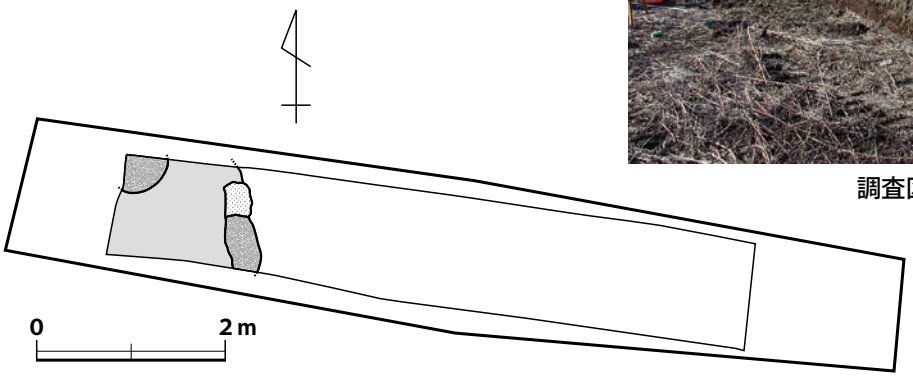


第 32 図　調査地位置図



第 33 図　八幡第１遺跡トレンチ配置図（1/1,000）

調査区全景



第 34 図　第１トレンチ平面図（1/80）

報　告　書　抄　録

ふ　り　が　な	へいせい 18 ねんどまいぞうぶんかざいしくつちょうさほうこくしょ
書　　名	平成 18 年度埋蔵文化財試掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	南アルプス市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 15 集
編　著　者　名	斎藤秀樹、田中大輔、保阪太一
編　著　機　関	南アルプス市教育委員会
所　　在　　地	〒 400-0492　山梨県南アルプス市鮎沢 1212　TEL055-282-7269
発 行 年 月 日	2008 年 3 月 31 日

遺跡名・試掘名	所　在　地	北　緯	東　経	標高 (m)	調査期間	調査面積 (㎡)	備考
百々・上八田遺跡	上八田 251-1	35°　39′ 39″	138°　28′ 24″	339	2006 年 4 月 25 日	47.4	
前御勅使側堤防址群	野牛島 1828-1 他	35°　39′ 51″	138°　29′ 23″	307	2006 年 4 月 27 日 2006 年 6 月 15 日～ 20 日	51.4	
豊小学校遺跡	吉田 787	35°　37′ 23″	138°　28′ 42″	297	2006 年 6 月 2、5、6 日	16.8	
石積出三番堤	有野 2512-1	35°　39′ 15	138°　25′ 13″	481	2006 年 7 月 12 日	11.8	
野牛島・西ノ久保遺跡	野牛島 2847 他	35°　40′ 07″	138°　28′ 31″	333	2006 年 8 月 29 日～ 10 月 31 日 2007 年 2 月 7 日～ 14 日	1,057.2	
若宮遺跡	小笠原 755-1	35°　36′ 36″	138°　27′ 31″	294	2006 年 9 月 21 日～ 28 日	82.2	
前御勅使側堤防址群	百々 4692 他	35°　39′ 33″	138°　27′ 15″	385	2006 年 10 月 17 日～ 11 月 2 日	88.4	
野牛島・家西遺跡	野牛島 2159	35°　39′ 57″	138°　28′ 42″	328	2006 年 11 月 15 日	26.3	
八幡第 1 遺跡	鏡中条 296-2、299	35°　37′ 21″	138°　29′ 53″	270	2007 年 2 月 19 日	13.5	

南アルプス市埋蔵文化財調査報告書　第 15 集

山梨県南アルプス市

平成 18 年度埋蔵文化財試掘調査報告書

発行日　2008 年 3 月 31 日

発行者　南アルプス市教育委員会

〒 400-0492

山梨県南アルプス市鮎沢 1212

TEL　055-282-7269

印刷所　鬼灯書籍株式会社

〒 381-0012

長野県長野市柳原 2133-5

TEL　026-244-0235

FAX　026-244-0210